

政策課題研究 3

湖沼の円滑な物質循環につながる要件と指標に関する研究

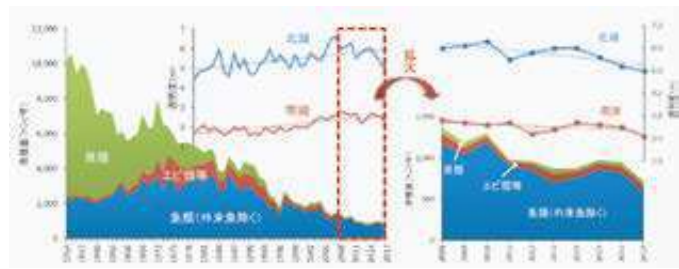
流入負荷の抑制による湖内物質量の削減だけでなく、魚介類等につながる物質循環を円滑にすることの重要性が指摘され始めています。そのため、湖内の円滑な物質循環につながる要件に着目し、栄養塩動態や有機物生産・捕食状況の把握、および円滑さを表す指標の検討などを実施します。

<サブテーマ>

- ・琵琶湖の健全性評価と総合計画推進支援
- ・動物プランクトンの餌資源解析
- ・湖内有機物の生産と分解プロセスの把握
- ・物質循環の状況把握とその指標の検討

【現状における課題】

- ・琵琶湖における長期的な水質改善と漁獲量減少等の異変
- ・ここ 10 年の水質傾向（大型緑藻・アオコの増殖など）
- ・湖内の物質循環に着目した施策構築の必要性



魚介類等につながる湖内の物質循環を円滑にする

良好な水質と魚介類の資源量の改善の両立

【課題解決に向けた対応】

- 1 物質循環の円滑さを表す指標を評価**
○琵琶湖流域水物質循環モデルを用いた解析
- 2 植物プランクトン等の餌生物と、動物プランクトンの生産性との関係を把握**
○生産量調査と動物プランクトンの摂食実験
- 3 湖内有機物の生産・分解プロセスを把握するための新手法を開発**
○溶存有機物の生産・分解プロセスの調査・分析
- 4 湖内栄養塩・有機物の循環の状況を把握**
○有機物の分解特性を把握する指標の検討・調査



○物質循環の円滑さを考慮した琵琶湖の健全性評価手法
および流域対策のあり方を提案